

「極秘諸国城図」の鳥羽城絵図について

現況最古の鳥羽城の絵図を確認！

鳥羽市教育委員会

概要

鳥根県松江市の松江歴史館が所蔵する「極秘諸国城図」については、最古段階の江戸城絵図や最も詳細な真田丸を描いた絵図が含まれることが判明し、注目されている資料です。この絵図群には74の城絵図が含まれており、その中に「鳥羽城図」が含まれています。

鳥羽市教育委員会では、この「鳥羽城図」について他の絵図と比較検討を行ない、城下町の寺院や道路の表現の違いから、九鬼氏の後に城主となった内藤氏の2代目忠政が城主の時代の万治2年（1659年）～寛文13年（1673年）の時期の状況を描いたものであることが判明しました。これにより、従来確認されている絵図よりも10年ほど遡り、現在、確認されている鳥羽城の絵図の中でも最も古い時期を描いた絵図であり、内藤氏によって整備が完了した鳥羽城の状況を示す資料として非常に重要な絵図であることを確認しました。



写真1 「極秘諸国城図」所収の「鳥羽城図」（松江歴史館蔵）

詳細

「極秘諸国城絵図」の「鳥羽城図」の寸法は 27.2cm×40.1cm です。

中心に城内、その周辺の城下町が描かれており、城下町は現在の鳥羽一丁目から四丁目を含みます。

では、なぜ「極秘諸国城図」の鳥羽城絵図が現況で最古の状況を描いたものとわかったのでしょうか。

鳥羽城の場合、九鬼氏の国替えの後に城主となった譜代の内藤忠重が城の整備を行い、近世城郭として完成したとされており、城内の表現は細かいところで違いはありますが、様々な絵図をみると、一部変化した部分はあるものの、明治時代に城が取り壊されるまで城の縄張りが大きく変わることはありませんでした。従って、絵図に年号や家臣の名前が記されていないと、どの時期の絵図になるのか非常にわかりにくかったのです。

「極秘諸国城図」の「鳥羽城図」も、城内の表現についてはこれまで確認されている絵図と同じような縄張りで描かれています。しかし、注目は城下町の表現にあります。

① 城の北の小山の上に「吉祥院」という寺院がある。

まず、城を出て北側の小山をみると、「吉祥院」というお寺名が記されています(写真2)。このお寺は九鬼嘉隆が鳥羽に進出する前にこの地を支配していた橘氏の菩提寺とされる寺です。「鳥羽城図」ではこの場所にありますが、延宝8(1680)年頃に描かれた「樋田文庫図」(三重県蔵)には、この寺は無く「的場」(写真3)に変わっており、寺は北西の大里地区に移動していることがわかります

吉祥院の場所について、鳥羽藩の儒学であった葦田省甫によって編集された志摩の国の地誌「志陽略誌」によると、「桃隠谷に在り(中略)往古此寺岩崎の茶臼山に在り、延宝七年寺を移す」とあり、樋田文庫図には、内藤家の家臣名が記されていることから、延宝7年～8年頃の状況を描いていることになります。従って、それよりも古い状況を描いている「鳥羽城図」は「樋田文庫図」よりも古いということになります。

また、現在のところ小山の上に「吉祥院」が描かれている絵図はこの「鳥羽城図」と聖心女子大学図書館蔵の「志摩国鳥羽図」しか確認されていません。

② 「鳥羽旧記」によると金胎寺は「月見櫓の下に有之(中略)内藤飛騨守(忠政)に山号を改め慈眼山と云也」とあり、聖心女子大の図は忠政から忠勝の時代。

③ 金胎寺について「元観音堂といひ、鍋ヶ崎月見櫓の下にありしを、内藤志摩守忠重の時、此所に移し、同忠政の時、慈眼山観音院と改む」(志陽略誌)

→極秘図には「観音堂」の表現（写真 8）があり、忠政が「観音院」と変える前の絵図である可能性が高い。→「観音堂」の表記は極秘諸国城図のみ。

④「鍵の手」の道

「極秘諸国城図」の「鳥羽城図」では城の西側の堀の部分を見ると、横町門を出た堀沿いの道に直角に折れ曲がる鍵の手と道が確認できます。（写真 5）。この鍵の手と道は、「鳥羽城図」にのみ確認できるもので、樋田文庫図よりも古い時期のものとみられる聖心女子大図書館蔵の「志摩国鳥羽図」をはじめ、他の鳥羽城の絵図で描かれている例は管見では確認されていません。（写真 6）。

⑤「極秘城図」の城北西部の本町には本照寺が記されており、寺の創建は万治 2（1659）年とされている。（写真 7）

→上限は本照寺が創建された万治 2（1659）年以降の忠政の時期と考えられる。

まとめ

これらの記述から「鳥羽城図」には山上の岩崎茶臼山に「吉祥院」と記されており、延宝 7（1679）年以前の様子を描いていることになります。また、金胎寺が「観音堂」と記されていることから、内藤忠重から忠政の時期が考えられますが、万治 2（1659）年に創建されたとされる本照寺が描かれていることから、この絵図に描かれた鳥羽城の様子は忠政が城主である万治 2 年（1659 年）～寛文 13 年（1673 年）の時期まで遡ることが判明しました。

これまで、鳥羽城の絵図でおおよその年代が判明している絵図は、延宝 7 年以前とみられる聖心女子大学図書館蔵の絵図と、樋田文庫図の延宝 8（1680）年頃の内藤忠勝の時期のものが古い時期のものとされてきました。今回の調査で「鳥羽城図」は、内藤忠勝よりもさらに 1 代前（10～20 年ほど）の内藤忠政が城主の時期まで遡ることが確実視され、内藤氏によって整備が完了した鳥羽城の状況を示す資料として非常に重要な絵図で、管見では鳥羽城の最も古い状況を描いた絵図ということが判明しました。また、今後の研究次第では、さらに時期が遡る可能性も残されています。

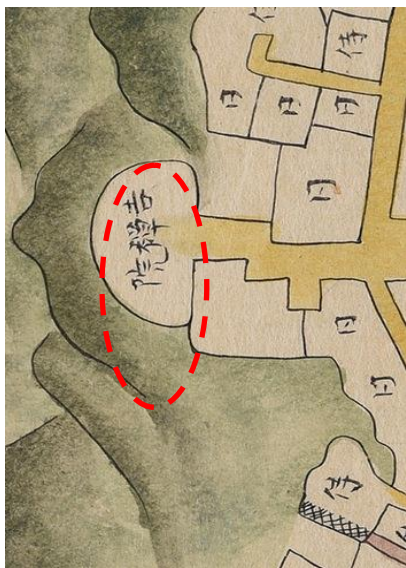


写真2 山上にある「吉祥院」



写真3 「的場」に変化

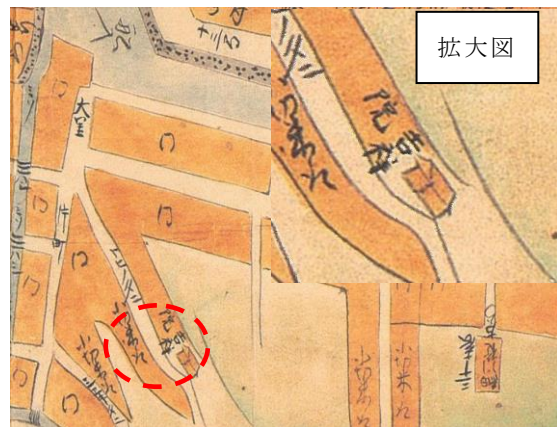


写真4 大里へ移動した吉祥院



写真5 堀脇の鍵手・道の表現

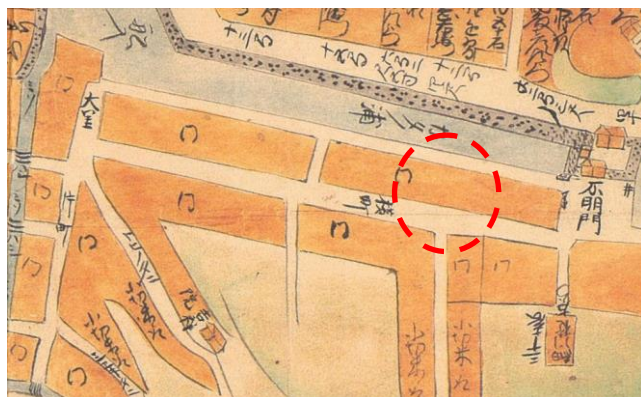


写真6 消滅した鍵手と道



写真7 本照寺



写真8 観音堂